

破天荒

教宣部

4997号

2015年
10月 9日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



その他

らぶらぶ

約束を守った

休日増

先日は秋闘の回答指定日で団体交渉が行われました。ここ十数年、要求に対してゼロ回答ばかりで労働条件の向上はなかったわけですが、来年は「山の日」一日増となります。

現在、年間休日百十七日となっていたのですが、「今後、国民の祝祭日が立法化されたときは、その都度常識的な範囲に於いて前向きに労使協議する」という三十年前の議事録に基づき、一日増の百十八日の回答が会社よりありました。

海の日が施行された一九九六年から、実に二十年ぶりの休日増です。従来より会社は「協約に書いてあることは守る」と

20年ぶり

休日増



次回団交 15日

一時金臨大 28日



発言していません。その代わり労働条件向上に関して「協定したら守らなければならぬので改善できない」とも発言し、労働条件については下がることは無いものの、向上に関してはここ十数年間なかったわけですから。そういう意味では会社が約束を守ったことは評価できます。

戦争法案反対

二・三日前の新聞に描かれた安保法案成立の風刺画が恐ろしかった。

「終わったのではない、静かに解き放たれたのだ」と闇の中を静かに歩き出すオカミ...

マスコミが安保法案成立前は国会議事堂の前に多くの人々が集まり「安保法案反対」「戦争法案反対」と叫

地味な改訂

従業員構成も団塊の世代から新しい世代に変わったわけですが、十一月五日が竹中の創立記念日と知る人も少なくなりました。再来年はその日が日曜日に当たり、協約通りなら年間休日が一日減る予定になっていました。

その条文が今回の回答では削除されました。これは長く竹中に勤める人にとっては画期的な前進回答だと評価しています。

び、大きく報道されていたのに、成立すれば翌日からは何も無かったかのように通常の放送をしている。アベノミクス「新三本の矢」、ラクビーが南アフリカに歴史的勝利を収めたこと大々的に報道、もう安保法案関係の報道は殆ど無い。私事ですが、先日安保法案反対デモに参加してきました。

その他の要求項目に関しては、相変わらずのゼロ回答でした。

コストの増えるものは全く考えられない。事務量が增えるのもコストであるとし、裁判員制度などの要求に関しては世間の六割が実施していたとしても考え方としてできない...と従来の主張を繰り返すのみでした。

国の後押し(立法)があったとしても今年の改善回答は少しだけ嬉しかった。それほど長く竹中にいる者の心は荒んでいるのだなあと自覚してしまいました。

私は「アベ政治を許さない」のポスターを掲げて歩いただけですが、シユプレヒコールの中に「賛成した議員は落選させよう!」と良い言葉がありました。次の選挙の時「私たちの意見を無視した議員に投票しない」ことだけは忘れず、にいようと思っております。

毎日の朝礼で売上数字が発表される。達成率 % と...。売上目標達成へ全社一丸となるため、士気高揚させるための何か。経営は数字でしか表せないという発想からなのか。確かに数字は気になるが、売上が伸びていないことはわかる。売上が減っている一方で増えているのは、会議の回数、書類への押印数、溜まるストレス量、サービス残業時間数などと思いつく。私たちが働く理由は、生活していくため。そして自分や家族の幸せのため。従業員が幸せを考えると、それが会社や取引先あるいはお客様の幸せになるという経営はできないものか。健全な会社って「経営者だけでなく従業員も幸せになる会社。企業とは従業員の魂の塊り」と言っている人がいた。それは数値化できないもの。数値化はできないが、それがあつかないかで企業の将来をはっきり左右すると思う。